

あい きょう しげ ゆき
愛敬重之 後援会
だより

2024
4月25日
No. 42 **77**

発行責任者 後援会会長
伊藤久志



JAM組織内候補の郡山さんと撮影

平素より議員活動に、ご協力いただきありがとうございます。
とございます。

2024年第1回市議会定例会は3月21日閉会しました。

新しい時代に向けた行政の変革による挑戦をしていくために、2024年度当初予算『**新時代への扉を拓く挑戦予算**』として、一般会計当初予算は**639.5億円**と2023年度対比**95.8億円**17.6%の増。ポイント事業として『**防災力の強化**』では、能登半島地震被害の経験から感震ブレイカー設置補助事業費など14事業18.2億円余。

『**スマート自治体への転換**』ではDX・GXの推進として宅配再配達削減啓発事業費など13事業4.2億円余。

『**確固たる財政基盤の確立**』では大山田スマートPAのスマートインターチェンジ化など5事業3.4億円余。

今回、子どもたちの保育環境充実と現場で従事する保育士らを応援する『**桑名市版 保育現場充実パッケージ**』として予算総額1.6億円余としてそれぞれ上程され可決されました。

今号では一般質問の報告を中心にさせていただきます。

愛敬重之
公式HP

<http://www.aikyo-kuwana.net/>



2024年第1回市議会定例会一般質問

質問の内容と回答(2と3をメインに)

1. SDGsの理念を踏まえた総合計画の推進について

SDGsの達成状況について～現時点での市の達成度は

2. 次世代モビリティ技術の活用について

令和元年以降の自動運転実証実験から～市で自動運転が実現する可能性は



地図情報に環境データを加えた高精度の3次元地図

2019年度から開始した自動運転実証実験にすべて試乗体験させていただきましたが、自動運転技術のレベルも年々向上しているのを実感しています。

実証実験で感じたのは『道路構造に関する課題と対策』『一般車両との速度差に関する課題と対策』『道路環境に関する課題と対策』この3点かと感じました。

国において、2025年度を目途に無人自動運転サービスを50カ所程度で実現とされていますが、市ではどのコースを登録して実現されるのかお伺いします。

●市の回答(抜粋)

国としては、自動運転を「実証」ではなく「実装」に向けた取り組み、さらに言えば地域における公共交通として持続可能な収益性を持った移動手段として実現させることを目指しているものと認識しています。

市としてもレベル4自動運転の実現を目指す走行ルートについては、こうした国の指針も注視しつつ、これまでの事業を通じて構築された官民連携による事業推進体制において協議を行ない、持続可能な移動サービスとして実現可能と思われる場所を選定していきたいと考えています。

自動運転については、将来の公共交通にとって非常に重要な技術であると同時に、企業との連携強化という点でも大変大きな意味を持つものです。

日本の基幹産業とも言われる自動車産業のイノベーションに関わる分野であることから、今年度の実証実験においては地元企業のみならず、通信や測量、保険、更にはスタートアップ企業などさまざまな分野の事業者の方々にご協力をいただきました。

市としては、自動運転を推進することで、持続可能な公共交通の実現に加え、さまざまなステークホルダーが参画することによる地域の活性化や市の魅力創出といった付加価値についても図っていきたいと考えています。

いずれにしても、自動運転を活用した移動サービスを早期に実現することで、「持続可能でスマートな社会の実現」を目指していきたいと考えています。

3. 産業誘導ゾーンにおけるまちづくりについて

企業誘致の推進に併せた環境整備について～立地企業の就業者に対する安全・安心な環境整備について

開発当時と異なり、就業者の数も多くなり駐車場の問題も多くなっています。写真の駐車場は、4社の就業者が利用する共同の駐車場です。横断歩道もなく、県道を横切り企業に通勤することが常態化しています。

公安委員会からは「滞留場を整備しても横断歩道の設置は難しく交通量も少ない事から危険ではない。」との回答でした。

この県道は、将来的にも改良もされ、大型車も多く利用する道路です。公安委員会は将来的なことを把握されていないのではないのでしょうか。

県道で、横断歩道もないところを就業者が横断しなくてはならない現状では、就業者のみならず、安全確保の観点からもマイナスです。



写真上部分が4社共同駐車場

●市の回答(抜粋)

現在、この産業誘導ゾーンへのアクセス強化を図るため、市としても、大山田パーキングエリアでのスマートインターチェンジ化や都市計画道路桑名北部東員線の整備を進めるなど、更なる産業活動への環境整備に取り組んでいるところです。

また、「まちづくり」としての取り組みも進めており、立地企業周辺で就業者居住を図る事による人口減少の抑制、併せてマイカー通勤の減少によるゼロカーボンシティの実現など、さまざまな課題解消に向けて、都市計画マスタープランの一部改定をはじめとした各種施策に取り組んでいきたいと考えています。

県道御衣野下野代線については、大型車を中心とした通過交通が増える中、歩行者の方から危険を感じるとの声もあり、また周辺企業からも、安全に横断できる箇所を確保するための横断歩道設置の要望をいただいていたところです。

今後、市としては、歩行者に対する注意喚起を促す看板の設置や路面標示などの対応可能な交通安全対策について関係機関を含め、検討していきたいと考えます。引き続き、就業者を含めた歩行者に対する横断歩道の必要性を公安委員会などに協議・要望していきたいと考えています。